様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾専門課程	プロフェッショナルデザイン科	夜・通信	29	12	
	ファッションビジネス科	夜・通信	11	6	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_2.pdf

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/outline/greeting/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	会社役員	令和７年６月４日～ 令和10年５月30日	法人ガバナンス 学校経営
非常勤	会社役員	令和７年６月４日～ 令和10年５月30日	法人ガバナンス 学校経営 広報関係
非常勤	元学校法人職員	令和７年６月４日～ 令和10年５月30日	法人ガバナンス 学校経営
（備考）			

様式第２号の２－②【⑵-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第２号の２－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

１．大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

２．外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
（備考）		

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ・授業の方法は、基本概要講義➡校内実習➡企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身に付けていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。その上で講義が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実習中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。	
授業計画書の公表方法	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_3-1.pdf https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_3-2.pdf https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_3-3.pdf https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_3-4.pdf https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_3-5.pdf https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_3-6.pdf
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

学習成果の評価にあたっては、あらかじめシラバスで示した基準に従い厳格かつ適正に実施している。評価の視点として、学習中の態度も評価要素としており、発言の回数やその発言の内容、どれくらいの時間で、どれだけのレベルのものができたかなど、量や質も含めている。

評価の対象としては、学科試験、レポートや作品（製作物）及び学習態度、研修委託先レポート等を要素として評価点を設定し総合的に判定している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

客観的な成績評価を推進するため、GPA 制度を導入している。

具体的には授業科目ごとに 0～4 段階のポイント（100 点から 90 点＝４ポイント、89 点から 80 点＝３ポイント、79 点から 70 点＝２ポイント、69 点～60 点＝１ポイント、59 点以下＝０ポイント）のポイントを付した上で、学生ごとの成績の平均を算出することとしている。

成績評価を厳格に行い、より教育効果を高めると共に教員の指導方法改善、学生の自主性を促進することを目的としている。

この制度導入の結果、成績評価の方法等の見直しについてホームページで公表するとともに、成績の分布状況等を分析し、教育の実施改善に活用している。

更に、前後期の学期末において、クラスごとの全学生 GPA データを職員会議で共有し、学科間のバランス等の問題点を共有し改善に努めている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_4.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ・修了及び卒業の判定は、各学年の終了認定[前後期の各試験の成績（各科目 60 点以上で必須科目の「不可」が 2 科目以内)、出席（科目ごとに４／５以上の出席時間数)、課題製作物（完成物を期限までに提出し評価が「不可」でないこと）の各評価]を基に、とする卒業認定会議（学校長をトップの教員会議）において総合的に審査・判断し、学校長がこれを認定する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_5.pdf

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
収支計算書又は損益計算書	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
財産目録	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
事業報告書	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
監事による監査報告（書）	学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
服飾・家政		服飾専門課程	ファッションビジネス科 プロデュースコース	○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	69単位	48単位	9単位	29単位	単位	単位
			86単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40人	9人	0人	4人	5人	9人

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
服飾・家政		服飾専門課程	ファッションビジネス科 ショップスタイリストコース	○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	69単位	48単位	9単位	29単位	単位	単位
			86単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40人	0人	0人	4人	5人	9人

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">服飾・家政</td><td>服飾専門課程</td><td colspan="2">ファッションビジネス科
テクニカルコース</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総
授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">69 単位</td><td>48 単位</td><td>9 単位</td><td>29 単位</td><td>単位</td><td>単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">86 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td colspan="2">総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">40 人</td><td>0 人</td><td>0 人</td><td>4 人</td><td>5 人</td><td colspan="2">9 人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）ファッションビジネス論等の講義及びビジネス企画等の演習で基本から実践までを学び、企業インターンシップ研修、実店舗開設等により更に高度な実践を経験することで、業界の即戦力となるレベルのスキルを修得する。・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講義が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実習中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目ごとの試験及び提出物評価（６０％以上の評価で合格）
卒業・進級の認定基準
（概要） ・各学年の授業日数の４／５以上の出席及び、各教科の４／５以上の出席 ・各年科目評価で不可が２科目以内
学修支援等
（概要） 授業内容の理解を深めるため及び外部の検定試験合格促進を目的として、休み時間を活用した個別指導や放課後や土曜日等の補講、更には夏休み等の長期休暇期間中の補講等を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 （100%）	0 人 （　　%）	3 人 （　　100%）	人 （　　%）
（主な就職、業界等） アパレル企業（販売職）			
（就職指導内容） 自己分析、企業リサーチ、履歴書作成指導、面接指導等に加えて企業インターンシップでの経験を基に就活指導をきめ細かく実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション販売検定２級、ファッションビジネス検定２級等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9　人	3 人	33.3%
（中途退学の主な理由） ・進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常指導：観察とコミュニケーション ・無断欠席者への連絡、 ・面談：年３回以上（課題の早めの把握、問題の共有、課題解決の支援）、３者面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	プロフェッショナル デザイン科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	125 単位	43 単位	4 単位	99 単位	単位	単位
			146 単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	29 人	0 人	6 人	5 人	11 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

服飾デザイン論等の講義及び服飾造形論等の実習で基本から学び、ファッションコンテストへの応募や企業インターンシップ研修等により更に高度な実践を経験することで、業界の即戦力となるレベルのスキルを修得する。・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講義が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実習中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目ごとの試験及び提出物評価（６０％以上の評価で合格）
卒業・進級の認定基準
（概要） ・各学年の授業日数の４／５以上の出席及び、各教科の４／５以上の出席 ・各年科目評価で不可が２科目以内
学修支援等
（概要） 授業内容の理解を深めるため及び外部の検定試験合格促進を目的として、休み時間を活用した個別指導や放課後や土曜日等の補講、更には夏休み等の長期休暇期間中の補講等を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
２人 （100%）	０人 （　　%）	２人 （　　100%）	人 （　　%）
（主な就職、業界等） アパレル企業（企画職、販売職、総合職）等			
（就職指導内容） 自己分析、企業リサーチ、履歴書作成指導、面接指導等に加えて企業インターンシップでの経験を基に就活指導をきめ細かく実施			

（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション色彩検定２級、パターンメーキング技術検定２級等
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29　人	6 人	20.68%
（中途退学の主な理由） ・進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 日常指導：観察とコミュニケーション ・無断欠席者への連絡、 ・面談：年３回以上（課題の早めの把握、問題の共有、課題解決の支援）、３者面談		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 （年間）	その他	備考 （任意記載事項）
ファッションビジネス科	200,000 円	600,000 円	270,000 円	
プロフェッショナルデザイン科	200,000 円	600,000 円	270,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p09_1.pdf
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
・学校関係者評価委員会において、社会的要請に応えた実践的かつ高度で専門的な知識・技能を付与する職業教育を行うこととした本校の教育活動について、その目標の達成に向けた取組状況や達成状況について評価を行う。 ・学校関係者評価委員会の委員については、高等学校関係者１名、企業関係者２名以上、保護者１名以上、卒業生１名以上、学生は各学科１名を選任することとする。 ・学校長は、委員会における評価結果を次年度の教育活動その他の学校運営の改善等に活用し、組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。

・学校関係者評価結果については、郊外評価項目の担当を中心に対応について検討し、次年度対応できるものについては前年度末の職員会議で対応方針及び対応方法等を決定・周知し対応する。次年度、対応に時間がかかるものについてはできるだけ速やかに学校長の責任において対応を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
高等学校校長 高等学校家庭科部会長	令和６年４月１日～ 令和８年３月 31 日	高等学校
企業幹部	令和６年４月１日～ 令和８年３月 31 日	企業
保護者	令和６年４月１日～ 令和８年３月 31 日	保護者
学生（３名）	令和６年４月１日～ 令和８年３月 31 日	学生
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 学校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p09_2.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.hiro-design.ac.jp/